

■ 掲示板

■ 東京大学物性研究所特任助教の公募

下記により特任助教の公募をいたします。適任者の推薦，希望者の応募をお願いいたします。

1. 研究部門名及び公募人員数：極限コヒーレント光科学研究センター 特任助教1名
2. 研究内容：物性研究所附属極限コヒーレント光科学研究センターにおいて，最先端の光電子分光装置を開発し，光電子分光によるナノ物質などの物性研究を推進する意欲的な若手研究者を求める。ただし，分野の経験の有無は問わない。
3. 応募資格：博士修了または修了見込みの方
4. 任期：平成30年3月末までとする。ただし，1年間の延長もあり得る。
5. 公募締切：平成28年5月31日(火) 必着
6. 就任時期：決定後なるべく早い時期を希望する。
7. 提出書類：
 - 履歴書（略歴で可）
 - 業績リスト（特に重要な論文に○印をつけること）
 - 主要論文の別刷（3編程度）
 - 研究業績の概要（2000字程度）
 - 研究計画書（2000字程度）

○本人について意見を伺える方，2名の氏名・役職・連絡先

8. 書類提出先：

〒277-8581 千葉県柏市柏の葉 5-1-5

東京大学物性研究所総務係

TEL：04-7136-3207

E-mail：issp-jinji@issp.u-tokyo.ac.jp

9. 本件に関する問合せ先：

東京大学物性研究所附属極限コヒーレント光科学研究センター

教授 辛 埴

TEL：04-7136-3380

E-mail：shin@issp.u-tokyo.ac.jp

10. 注意事項：書類提出先に提出書類をPDFにてe-mailにより送付すること。極限コヒーレント光科学研究センター（辛研究室）特任助教応募書類と件名に書くこと。（受け取りの返事がない場合は，公募締切日までに問い合わせを行うこと）

11. 選考方法：東京大学物性研究所教授会の議を経て，審査決定する。ただし，適任者のない場合は，決定を保留する。

12. その他：提出書類等は本応募の用途に限り使用し，個人情報とは正当な理由なく第三者への開示，譲渡及び貸与することは一切ない。

■会告

■第20回日本放射光学会奨励賞選考結果報告

2015年10月10日開催の学術賞等選考委員会の選考結果として2名が推薦された。

その結果を受け、第108回評議員会にて第20回日本放射光学会奨励賞の授与が承認され、第29回総会にて賞状並びに副賞のメダルが授与された。

氏名、所属、並びに、選考理由は下記の通り。

・片山哲夫（高輝度光科学研究センター XFEL 利用研究推進室）
「X線自由電子レーザーを利用したフェムト秒X線分光法の開発」

片山哲夫氏は超高輝度光源であるX線自由電子レーザー（XFEL）を用いたフェムト秒X線分光法の開発における諸問題を解決し、超高速放射光科学の発展に大きく貢献した。

現行のXFELは自己増幅自発放射（SASE）と呼ばれる方式を採用しており、その超短パルス特性と幅広いスペクトル幅を活かした超高速放射光科学の開拓が期待される一方、SASE方式に特有の強度・スペクトルのランダムな揺らぎの存在によってその利用が制限されている。片山氏は、透過型回折格子とビームスプリッターを用いてこれらの揺らぎをダイナミカルに補正する手法を考案し、フェムト秒光学レーザーと組み合わせてシングルショットで10フェムト秒時間分解X線吸収分光を行う道を切り拓いた。この研究報告を契機に、XFELを用いた世界的な超高速分光の開発競争が始まっている。

またアメリカ・スタンフォードのLCLSにおいても世界初のサブピコ秒時間分解軟X線発光分光測定を成功させる立役者となっており、その後のXFELを用いた表面分光研究の発展に寄与している。

以上のように、将来の放射光サイエンスに大きな影響を与えた片山氏の業績は日本放射光学会奨励賞に十分に値するものであり、今後の光源開発に追随してさらなる成果を挙げることを期待するものである。

・河口智也（京都大学産官学連携本部）

「回折XAFS法の開発とその電池材料解析への応用」

河口智也氏は、京都大学大学院工学研究科材料工学専攻の大学院生として革新型蓄電池研究拠点（RISING）における専用ビームラインの建設とその立ち上げに深くかかわった。完成したビームラインを利用してLiイオン二次電池正極の充放電サイクルに伴う構造変化のヒステリシスと蓄電池性能、および劣化の機構を明らかにするために、正極物質を構成するカチオンのサイトを区別した構造とLiイオンの挿入脱離に伴うカチオンの価数変化の同時計測が可能な回折XAFS法（DAFS法）に着目し、簡便で高速な実験手法の確立と、従来のような反復法を必要としない実験データのみに基づく結果の曖昧さを最小限にした独創的な解析法の開発に成功した。河口氏は、DAFS法を他分野の研究者でも簡便に利用するための試料調整法から、測定法、解析ソフトまで一貫して整備し、XAFS分野の汎用性、有用性を飛躍的に高めるとともに研究者コミュニティの裾野を大きく広げた。さらに、このような放射光分析法自体の開発のみならず、これを利用することによって、Liイオン二次電池の長年の課題であったカチオン

ミキシング問題に対して実験結果に基づく鮮明な描像を提案し、今後の二次電池電極材料を開発する上で重要な知見を与えた。

以上のように、河口智也氏の成果は高く評価でき、本学会奨励賞の授賞に値する。

■第3回日本放射光学会功労報賞選考結果報告

2015年10月31日開催の第108回評議員会にて、石川会長より、本年度は1名の候補者が推薦されたが、候補者と同様な貢献を永年に亘って継続している者は多数おり、本年度推薦された候補者を特に選んで報賞を授与することには慎重であるべきとの結論に至った旨、説明があった。また、今回の候補者を含む同様な貢献者に対して、例えば放射光学会30周年記念式典などの機会を捉えて、一括して功労報賞を贈ることを検討してはどうかとの提案があり、選考結果およびこの提案を承認した。

■日本放射光学会第109回評議員会議事録

日時：2016年1月9日（土） 12:00~13:00

場所：柏の葉カンファレンスセンター A会場

出席者：足立伸一、雨宮健太（渉外幹事）、雨宮慶幸、有馬孝尚、石川哲也（会長）、稲田康宏、太田俊明、尾嶋正治、籠島靖、河田洋、木下豊彦、木村昭夫、木村真一、木村洋昭、近藤寛、辛埴、鈴木基寛、野村昌治、平井康晴、水木純一郎、村上洋一、百生敦、山本雅貴、渡辺義夫
吾郷日出夫（編集幹事）、藤原明比古（庶務幹事）、矢代航（行事幹事）、渡部貴宏（会計幹事）

欠席者：小杉信博、繁政英治、高原淳、谷口雅樹、濱広幸、横山利彦

事務局：佐藤亜己奈（WORDS）、西野三和子（WORDS）

〈審議事項〉

1. 第29回総会議事

藤原庶務幹事より、第29回総会の議事案について説明があり、これを承認した。また、下記4点について確認をした。

1) 行事計画：第9回若手研究会

第9回若手研究会公募締切を例年より早めて2016年3月中旬とした。

2) 学会事務局業務委託先

会員への学会事務局移行に関わる経緯説明と移行期間の理解と協力依頼の内容について確認した。（内容の詳細は報告事項「1. 学会事務局委託先」参照）

3) 2015年度決算、2016年度予算案

2015年度決算および予算案を確認した。

4) 賞の創設

賞の創設について、第108回評議員会からの議論の経緯を説明し、総会でも審議することを確認した。

2. 学会賞（本賞）の創設について

石川会長より、第108回評議員会において創設に向けて検討

することとなっていた学会賞（本賞）の内規（草案）が示され、これについて審議した。受賞対象者の範囲や賞の名称などについて様々な意見があったため、賞の創設を総会で諮ることについては承認し、詳細は継続して検討することとした。

3. 会員異動

藤原庶務幹事より、第108回評議員会以降の入会申請者に関して、入会：正会員7名（内学生3）、シニア会員1名、賛助会員1社（1口）の報告があり、これを承認した。退会に関して、退会：正会員7名（内学生0名）を確認した。

2016年1月9日現在の総会員数は1,333名（内学生135名）、名誉会員6名、シニア会員41名、賛助会員43社（45口）、特別賛助会員11団体（18口）。また、会費3年間未納のための自動退会者39名を確認した。

4. 協賛・後援・共催

藤原庶務幹事より、本学会に対する協賛依頼について報告があり、協賛9件を承認した。

〈報告事項〉

1. 学会事務局業務委託先

藤原庶務幹事より、108回評議員会において、業務委託先の最終候補を決定し、2016年4月から2017年4月を移行期間として引継ぎを行なう計画であったが、(株)ワーズの業務終了が2016年3月に変更となったため、事務局変更の予定日を2016年4月として、現在、業務委託予定の業者と事務局移行プロセスを具体的に検討しているとの報告があった。尚、現執行部、現事務局において、2016年4月の事務局移行を実施するために注力しているが、前例の無い事務局移行業務を短期間で行なうため、2017年4月頃までは、「移行時期」として、ご理解とご協力をいただきたいとの要請があった。

2. JSR2017準備状況

矢代行事幹事より、第29回年会・合同シンポ（JSR2016）が順調に開催されているとの報告があった。また、第30回年会・合同シンポ（JSR2017）について、2017年1月7日（土）～9日（月・祝）に神戸芸術センターで開催予定であるとの報告があった。実施体制は組織委員長：矢代航（東北大学）、プログラム委員長：松下智裕（JASRI）、実行委員長：後藤俊治（JASRI）。

3. 出版業務報告

吾郷編集幹事より、依頼記事の進捗状況と会誌編集状況（試料環境シリーズ）について報告があった。

4. 国際光年総括シンポジウム報告

雨宮渉外幹事より、2015年12月11日に東京大学安田講堂で開催された国際光年総括シンポジウムについて報告があった。

5. AOFSSR 報告

雨宮渉外幹事より、2015年11月25日～27日にメルボルンで開催されたAOFSSR2015について報告があった。また、Agenda of the Council Meeting が示され、Spring-8はこれまでのCheiron Schoolの代わりに、経験を積んだ放射光施設スタッフを対象に、毎年特定の先端技術とその放射光・XFELへの展開を議論するCheiron Grad Schoolを開催すること、従来のCheiron Schoolのような教育的プログラムは、今後、参加国持ち回りでの開催を検討すること、AOFSSRは毎年行われてきたAOFSSR conferenceの代わ

りに、SRIのアジア版とも言うべき国際会議をSRIと前後して3年に一度開催することなどの説明があった。

6. 日本学術会議協力学術研究団体実態調査

藤原庶務幹事より、日本学術会議から日本学術会議協力学術研究団体実態調査依頼があり、協力をした旨、報告があった。

7. その他

マスタープランへの放射光学会の対応に関して質問があり、石川学会長より下記の説明があった。マスタープラン2014の骨子は継続すべき状況にある。このため、学術会議からまだ正式な依頼は来ていないが、放射光学会としては、その考えに基づいて、対応していくことになると考えている。

評議員会日程（予定）の確認

第110回評議員会 2016年4月9日（土）

場所：関西学院大学 東京丸の内キャンパス

第111回評議員会 2016年7月16日（土）

場所：関西学院大学 東京丸の内キャンパス

■第29回（2016年）日本放射光学会総会議事録

日時：2016年1月9日（土） 15：10～16：10

場所：柏の葉カンファレンスセンター A会場

出席者：出席者：96名 委任状：57名 計：153名

定款第28条により、正会員の1/10（138名）以上の参加で総会は成立。

（議事）

1. 議長選出

議長に木村昭夫会員を選出した。

2. 2016年度会長挨拶

石川会長より挨拶があり、放射光学会ミッションの再定義、高いレベルでサイエンスを進める環境作り、近未来放射光利用者支援体制の検討など、2016年度の活動方針について所信表明があった。

3. 2015年度事業報告

藤原庶務幹事より、2015年度の学会活動について報告があった。

4. 2016年度学会組織・2016年度事業計画

藤原庶務幹事より、2016年度の学会組織（会長、幹事、評議員、各委員会）および2016年度の事業計画について報告があった。

5. 2016年度行事活動方針

矢代行事幹事より、年会・合同シンポ、放射光基礎講習会、若手研究会の開催など、2016年度の行事活動方針について報告があった。

6. 2016年度編集活動方針

吾郷編集幹事より、試料環境シリーズの連載、特集号の出版など、2016年度の編集活動方針について報告があった。

7. 2016年度渉外活動方針

雨宮渉外幹事より、他学会に対する情報発信、AOFSSRでのリーダーシップの確保、IUCrのCommission on Synchrotron Radiationとの協調、将来光源計画に向けた学術会議マスタープランへの対応、学会ホームページのアップデート、緊急時における他学会への働きかけ、男女共同参画との連携

など、2016年度渉外活動方針について報告があった。

8. 第20回学会奨励賞

藤原庶務幹事より、学術賞等選考委員会において、今後の放射光科学での広い分野への寄与の可能性に重点を置く方針の下選考を行った結果、下記の2名を第20回学会奨励賞の受賞者として決定した旨の報告があった。

片山哲夫会員（高輝度光科学研究センター XFEL 利用研究推進室）

「X線自由電子レーザーを利用したフェムト秒X線分光法の開発」

河口智也会員（京都大学産官学連携本部）

「回折 XAFS 法の開発とその電池材料解析への応用」

9. 第3回功労報賞

藤原庶務幹事より、第3回功労報賞の選考結果について、本年度は1名の候補者が推薦されたが、候補者と同様な貢献を永年に亘って継続している者は多数おり、本年度推薦された候補者を特に選んで報賞を授与することには慎重であるべきとの結論に至った旨、説明があった。また、今回の候補者を含む同様な貢献者に対して、例えば放射光学会30周年記念式典などの機会を捉えて、一括して功労報賞を贈ることを検討する予定であるとの報告があった。

10. 学会事務局業務委託先

藤原庶務幹事より、第104回評議員会において、現在学会事務局業務を委託している(株)ワーズの業務終了報告を受けて以降、業務委託先を具体的に検討してきた経緯について説明があった。108回評議員会において、行委託先の最終候補を決定し、2016年4月から2017年4月を移行期間として引継ぎを行なう計画であったが、(株)ワーズの業務終了が2016年3月に変更となったため、事務局変更の予定日を2016年4月として、現在、業務委託予定の業者と事務局移行プロセスを具体的に検討しているとの報告があった。

尚、現執行部、現事務局において、2016年4月の事務局移行を実施するために注力しているが、前例の無い事務局移行業務を短期間で行なうため、2017年4月頃までは、「移行時期」として、ご理解とご協力をいただきたいとの要請があった。

11. 国際光年総括シンポジウム報告

雨宮渉外幹事より、2015年12月11日に東京大学安田講堂で開催された国際光年総括シンポジウムについて報告があった。

12. AOFSSR 報告

雨宮渉外幹事より、2015年11月25日-27日にメルボルンで開催されたAOFSSR2015について報告があった。また、Agenda of the Council Meeting が示され、SPring-8はこれまでのCheiron Schoolの代わりに、経験を積んだ放射光施設スタッフを対象に、毎年特定の先端技術とその放射光・XFELへの展開を議論するCheiron Grad Schoolを開催すること、AOFSSRは毎年行われてきたAOFSSR conferenceの代わりに、SRIのアジア版とも言うべき国際会議をSRIと前後して3年に一度開催することなどの説明があった。

13. 2015年度決算報告

渡部会計幹事より、2015年度決算および資産負債明細について、若手研究会開催費および税理士顧問料は前年度未清算分

が繰り越されているため例年より支出が増えていること、AOFSSR協賛金は年度内に請求がなかったため次年度に繰り越されること、会誌印刷費はこれまで11月号から9月号までを1年分としていたが、会計年度の開始が10月であり、9月号は新年度に会計処理をする方が適正であるため、2016年度からは9月号から7月号までを1年分とし、その移行期間として2015年度は5号分の費用となっていること等説明があり、これを承認した。

14. 2016年度予算案

渡部会計幹事より、2016年度予算案が示され、これを承認した。

15. 放射光科学に関わる賞の創設について

現在放射光学会には奨励賞および功労報賞があり、将来放射光科学を担う若手や放射光利用技術・支援を通じた永年の貢献者に対して顕彰してきたが、顕著な貢献をした方々への顕彰、すなわち本賞に相当するものが存在しない。今回、奨励賞、功労報賞の選考基準の考察を機会に顕在化した本賞について、今後、評議員会での議論を経て創設に向けて検討することが石川会長より提案された。審議の結果、これを承認し、内規などの詳細は今後評議員会で検討していくこととした。

■会員異動

第109回評議員会（2016年1月9日）で承認

《正会員入会》

劉 若亞 東京大学物性研究所松田巖研究室
金 歌 九州工業大学工学府先端機能システム工学専攻
吉留 崇 東北大学大学院工学研究科応用物理学専攻
石坂 香子 東京大学大学院工学系研究科量子相エレクトロニクス研究センター

以上4名

《学生会員入会》

三橋 太一 東北大学大学院、理学研究科物理学専攻
堀尾 眞史 東京大学大学院理学系研究科物理学専攻 藤森研究室
高橋 拓人 東京電機大学大学院工学研究科物質工学専攻分析化学研究室

以上3名

《シニア会員入会》

吉田 明 豊橋技術科学大学

以上1名

《賛助会員入会》

株式会社アトック

以上1社1口

《退会会員》

正会員7名

《会員数》

会員1333名（内学生135名） 名誉会員6名 シニア会員41名 賛助会員43社（45口） 特別賛助会員11団体（18口）

日本放射光学会2015年度決算書
自 2014年10月1日 至 2015年9月30日

1. 収入の部

(単位 円)

科 目	細 目	金 額	額
会費収入	正会員会費収入	8,632,000	12,256,000
	学生会員会費収入	199,000	
	賛助会員会費収入	2,150,000	
	購読会員会費収入	375,000	
	特別賛助会員会費収入	900,000	
会誌収入	会誌広告収入	2,826,571	3,403,307
	会誌販売収入	205,880	
	別刷収入	370,856	
	会誌カラー印刷費	0	
年会・合同シンポ収入			15,132,564
行事開催収入	基礎講習会	180,000	180,000
単行本出版収入	販売収入 (ビームライン光学技術)	223,500	228,500
	販売収入 (検出器ガイド)	5,000	
雑収入	Amazon アソシエイト・プログラム紹介料	0	1,257
	受取利息	1,257	
収入の部合計			31,201,628

2. 支出の部

科 目	細 目	金	額
学会誌出版費	会誌印刷費 別刷印刷費 原稿料 会誌発送費 発送手数料 (ワーズ)	4,200,958 111,550 103,000 637,389 437,834	5,490,731
単行本出版費	発送手数料 (ビームライン光学技術) (ワーズ) 仕入れ (検出器ガイド)	49,288 4,752	54,040
学会奨励賞費	特注純銀メダル等		65,016
年会・合同シンポ支出	開催費 委員会旅費 事務管理費 (ワーズ)	9,200,937 1,387,650 1,614,151	12,202,738
行事開催費	基礎講習会開催費 若手研究会開催費	186,877 659,151	846,028
事業費	会議費 通信費 印刷費 事務局交通費 公開市民講座開催費 AOFSRR 協賛金 国際光年協賛金	1,656,720 838,202 238,652 144,770 0 0 150,000	3,028,344
管理費	事務用品費 消耗品費 給料手当 (選挙開票アルバイト) 運賃 (宅急便+メール便) 支払手数料	1,540 45,586 24,000 77,376 183,005	331,507
ワーズ事務委託費	ホームページ維持費 Web 会員名簿維持費 会員業務費 庶務業務費 行事開催業務費 広告業務費	455,381 187,920 741,204 1,450,224 51,428 847,969	3,734,126
会計業務費	税理士顧問料		668,000
諸会費	男女共同参画協会連絡会		5,000
支出の部合計			26,425,530

3. 収支計算の部

科 目	細 目	金	額
当期収支差額			4,776,098
前期繰越金			10,302,754
次期繰越金			15,078,852

2015年度資産負債明細

2015年9月30日現在

1. 流動資産の部

(単位 円)

科 目	細 目	金 額
1. 現金及び預金	手持現金残高	49,180
	郵便振替残高	4,909,938
	三菱東京 UFJ 銀行普通預金残高	6,541,375
	三井住友銀行普通預金残高	11,601,813
2. 未収金	会誌販売未収残高	59,840
3. 立替金	第29回年会・合同シンポ(旅費など)	1,019,758
4. 前払金	2016年度市民公開講座(ポスター印刷代)	24,948
流動資産の部合計		24,206,852

2. 負債の部

科 目	細 目	金 額
1. 会費前受金	正会員会費	6,156,000
	学生会員会費	122,000
	賛助会員会費	1,950,000
	特別賛助会員会費	900,000
負債の部合計		9,128,000

3. 剰余金の部

科 目	細 目	金 額
1. 前期繰越金		10,302,754
2. 当期収支差額		4,776,098
剰余金の部合計		15,078,852

日本放射光学会2016年度予算書
自 2015年10月1日 至 2016年9月30日

1. 収入の部

(単位 円)

科 目	細 目	金	額
会費収入	正会員会費収入	8,600,000	12,575,000
	学生会員会費収入	200,000	
	賛助会員会費収入	2,200,000	
	購読会員会費収入	375,000	
	特別賛助会員会費収入	1,200,000	
会誌収入	会誌広告収入	3,000,000	3,570,000
	会誌販売収入	200,000	
	別刷収入	370,000	
	会誌カラー印刷費	0	
年会・合同シンポ収入			14,217,200
行事開催収入	基礎講習会	100,000	100,000
	若手研究会	0	
単行本出版収入	販売収入 (ビームライン光学技術)	300,000	300,000
雑収入	受取利息	1,000	1,000
収入の部合計			30,763,200

2. 支出の部

科 目	細 目	金	額
学会誌出版費	会誌印刷費	5,800,000	7,350,000
	別刷印刷費	300,000	
	原稿料	100,000	
	会誌発送費	650,000	
	発送手数料 (ワーズ)	500,000	
単行本出版費	発送手数料 (ビームライン光学技術) (ワーズ)	50,000	50,000
学会奨励賞費	特注純銀メダル等		126,420
年会・合同シンポ支出	開催費 委員会旅費 事務管理費 (ワーズ)	9,676,849 1,305,000 1,600,000	12,581,849
行事開催費	基礎講習会開催費	100,000	600,000
	若手研究会開催費	500,000	
事業費	会議費	1,700,000	4,430,000
	通信費	840,000	
	印刷費	240,000	
	事務局交通費	150,000	
	公開市民講座開催費	300,000	
	AOFSRR 協賛金	1,200,000	
	国際光年協賛金	0	
管理費	事務用品費	10,000	414,000
	消耗品費	100,000	
	給料手当 (選挙開票アルバイト)	24,000	
	運賃 (宅急便+メール便)	100,000	
	支払手数料	180,000	
ワーズ事務委託費	ホームページ維持費	455,000	3,945,000
	Web 会員名簿維持費	190,000	
	会員業務費	750,000	
	庶務業務費	1,500,000	
	行事開催業務費	50,000	
	広告業務費	1,000,000	
会計業務費	税理士顧問料		468,000
諸会費	男女共同参画協会連絡会		5,000
新事務局移行費			1,500,000
支出の部合計			31,470,269

3. 収支計算の部

科 目	細 目	金	額
当期収支差額			- 707,069
前期繰越金			15,078,852
次期繰越金			14,371,783

■日本放射光学会2016年度組織

■会長（任期：2015.10.01-2017.09.30）

石川 哲也（理研）

■幹事（任期：2015.10.01-2017.09.30）

庶務幹事 藤原明比古（関学）

行事幹事 矢代 航（東北大）

編集幹事 吾郷日出夫（理研）

渉外幹事 雨宮 健太（KEK）

会計幹事 渡部 貴宏（JASRI）

■評議員

（任期：2014.10.01-2016.9.30）

足立 伸一（KEK）

雨宮 健太（KEK）

有馬 孝尚（東大）

稲田 康宏（立命館大）

籠島 靖（兵庫県立大）

河田 洋（KEK）

木下 豊彦（JASRI）

木村 洋昭（JASRI）

近藤 寛（慶應大）

谷口 雅樹（広大）

野村 昌治（KEK）

濱 広幸（東北大）

百生 敦（東北大）

横山 利彦（分子研）

渡辺 義夫（あいちSR）

（任期：2015.10.01-2017.09.30）

雨宮 慶幸（東大）

石川 哲也（理研）

太田 俊明（立命館大）

尾嶋 正治（東大）

木村 昭夫（広大）

木村 真一（阪大）

小杉 信博（分子研）

繁政 英治（分子研）

辛 埴（東大）

鈴木 基寛（JASRI）

高原 淳（九大）

平井 康晴（SAGA-LS）

水木純一郎（関学）

村上 洋一（KEK）

山本 雅貴（理研）

■行事委員（任期：2015.10.01-2016.09.30）

矢代 航（東北大）委員長

秋葉 勇（北九市大）

五十嵐教之（KEK）

池本 夕佳（JASRI）

竹内 晃久（JASRI）

登野 健介（JASRI）

永村 直佳（NIMS）

初井 宇記（理研）

舟越 賢一（CROSS）

三村 秀和（東大）

和達 大樹（東大）

■渉外委員（任期：2015.10.01-2017.09.30）

雨宮 健太（KEK）委員長

石坂 香子（東大）

片山 哲夫（JASRI）

仁谷 浩明（KEK）

宮脇 淳（東大）

■編集委員

（任期：2009.10.01-2016.09.30）

舟越 賢一（CROSS）

（任期：2010.10.01-2016.09.30）

水牧仁一朗（JASRI）

（任期：2013.10.01-2016.09.30）

富樫 格（JASRI）

（任期：2014.10.01-2016.09.30）

大和田謙二（JAEA）

栗栖 源嗣（阪大）

島田 美帆（KEK）

下崎 義人（JASRI）

田中 清尚（分子研）

筒井 智嗣（JASRI）

中西 康次（京大）

（任期：2015.10.01-2017.09.30）

吾郷日出夫（理研）委員長

青柳 忍（名古屋市立大）

池田 直（岡山大）

犬伏 雄一（JASRI）

岡 俊彦（静岡大）

奥山 大輔（東北大）

荳口 友隆（慶応大）

清水 伸隆（KEK）

高橋 和敏（佐賀大）

出口 博史（関西電力）

保倉 明子（東京電機大）

■2016年度の主な事業計画

●第9回 AOFSSRR スクール（Cheiron School 2015）

2015年9月10日-19日（於：SPRING-8）

●第9回 AOFSSRR

2015年11月25日～11月27日（於：Australia）

●第29回年会・放射光科学合同シンポジウム

2016年1月9日-11日（於：東京大学柏の葉キャンパス駅前サテライト，柏の葉カンファレンスセンター，オークビレッジ柏の葉）

●第29回総会

2016年1月9日（於：柏の葉カンファレンスセンター）

● 第20回学会奨励賞授与

2016年1月9日（於：柏の葉カンファレンスセンター）

● 日本放射光学会市民公開講座

2016年1月9日（於：オークビレッジ柏の葉）

● 若手研究会

● 放射光基礎講習会

2016年夏季開催予定

● 評議員会（10月，1月，4月，7月）

● 幹事会（12月，3月，6月）

● 編集委員会（年3回）

● 行事委員会（年1回（年会時））

● 第21回学会奨励賞受賞候補者選考会議

● 次期評議員選挙

● 学会誌の定期発行（年6回）

Vol. 28, No. 6/2015年11月末発行

Vol. 29, No. 1/2016年1月末発行

Vol. 29, No. 2/2016年3月末発行

Vol. 29, No. 3/2016年5月末発行

Vol. 29, No. 4/2016年7月末発行

Vol. 29, No. 5/2016年9月末発行

● 第30回年会・放射光科学合同シンポジウム

（2017年1月/神戸芸術センター）準備

● 会誌オンライン利用方法に関するご案内 ●

編集委員長 吾郷日出夫

渉外幹事 雨宮健太

オンライン会誌にアクセスするには、放射光学会のトップページにある会員専用ボタンをクリックし、会員専用ページにアクセスする必要があります。

会員専用ページにアクセスするためのユーザー ID とパスワードは

User ID: jsr292

Password: NmsIn2t3

です。このユーザー ID とパスワードは、次号が発行された後に失効します。

会員専用ページにある、[学会誌「放射光」のオンライン閲覧](#)をクリックして頂ければ、オンライン会誌を従来通りご覧頂くことができます。

会員以外の方へのパスワード漏洩は禁止いたします。また、記事の著作権は日本放射光学会にありますので、転載等のご希望に関しては、必ず事務局までご連絡下さい。良識あるご利用で、会員の皆様のお役に立てれば幸いです。

ホームページに関して問題等ございましたら、雨宮（kenta.amemiya@kek.jp）までご連絡下さい。オンライン会誌に関するご連絡は、吾郷（ago@spring8.or.jp）までお願いします。

■行事予定

開催月日	名 称	開 催 地	主催又は問い合わせ先	掲載巻・号
2016年 5/24-27	第52回真空技術基礎講習会	大阪府立産業技術総合 研究所	(一社)日本真空学会関西支部, (一社) 大阪府技術協会, 日本真空工業会関西 支部 E-mail: g-kyoukai@dantai.tri-osaka.jp	29・2
6/22-24	第41回光学シンポジウム	東京大学 生産技術研 究所 An 棟	(一社)日本光学会 E-mail: optsymp41-aud@myosj.or.jp	29・1 29・2
7/3-6	第16回 SPring-8 夏の学校—最先端の放射 光科学を学ぶ—	大型放射光施設 SPring-8 キャンパス	兵庫県立大学大学院物質理学研究科・ 生命理学研究科, 関西学院大学大学院 理工学研究科, 東京大学放射光連携研 究機構, 岡山大学, 大阪大学・光科学 連携センター・蛋白質研究所・核物理 研究センター, (公財)高輝度光科学研 究センター, 理化学研究所放射光科学 総合研究センター, 日本原子力研究開 発機構 等 (予定) E-mail: 2016summerschool@spring8.or.jp	29・2
7/4	日本真空学会関西支部&日本表面科学会関 西支部合同セミナー2016 「生分解性高分子の基礎と応用 —近未来 のすがた—」	京都大学 桂キャンパ ス 桂ホール	(公社)日本表面科学会関西支部, (一社) 日本真空学会関西支部, 京都大学大学 院工学研究科 E-mail: z96019@kwansei.ac.jp	29・2
7/29	第44回薄膜・表面物理セミナー (2016) 最 先端バイオイメージング技術の基礎と応用	早稲田大学 西早稲田 キャンパス 55N 号館 1階 大会議室	(公社)応用物理学会 薄膜・表面物理分 科会 E-mail: oda@jsap.or.jp	29・2
8/25	第6回講習会「X線反射率による薄膜・多 層膜の解析」	物質・材料研究機構 千現地区	(公社)応用物理学会 埋もれた界面の X 線中性子解析研究会 E-mail: SAKURAI.Kenji@nims.go.jp	29・2

■第52回真空技術基礎講習会

実習を主にした初心者のための真空技術基礎講習会。真空の基礎、真空ポンプ、計測、リークテスト。

主催：(一社)日本真空学会関西支部，(一社)大阪府技術協会，
日本真空工業会関西支部

日時：2016年5月24日(火)～5月27日(金)

場所：大阪府立産業技術総合研究所（大阪府和泉市あゆみ野2-7-1）

参加費：主催団体会員55,000円，協賛団体会員58,000円，一般65,000円

定員：60名

締切日：2016年5月16日(月)

申込・連絡先：

(地独)大阪府立産業技術総合研究所内
(一社)大阪府技術協会 担当：三浦
〒594-1157 大阪府和泉市あゆみ野 2-7-1
大阪府立産業技術総合研究所
TEL：0725-53-2329 FAX：0725-53-2332
E-mail：g-kyoukai@dantai.tri-osaka.jp
<http://www.vacuum-jp.org/>

■第41回光学シンポジウム

主催：一般社団法人 日本光学会

日時：2016年6月22日(水)～6月24日(金)

開催内容は、チュートリアル(22日)、シンポジウム(23・24日)となります。

場所：東京大学 生産技術研究所 An 棟

テーマ：「光学システム・光学素子の設計，製作，評価を中心として」

早期申込(シンポジウム)：6月10日(金)までに光学シンポジウムHPから参加登録および参加費振込を完了してください。

※チュートリアル受講には別途参加申込が必要です。

詳細は光学シンポジウムHPをご参照ください。

光学シンポジウムHP：http://myosj.or.jp/event2/opt_symp

問合せ先：

コニカミノルタ(株) 光学事業本部 U & C 事業部開発部
野村英司 E-mail：Eoptsymp41-aud@myosj.or.jp

■第16回 SPring-8 夏の学校

—最先端の放射光科学を学ぶ—

SPring-8 夏の学校は、次世代の放射光利用研究者の発掘と育成を目的として、大学院修士(博士前期)課程に在学中の学生および学部4年生を主な対象*に、毎年夏に4日間の日程で開催され今年で16回目となります。

SPring-8 で活躍する最前線の研究者による講義と実習を組み合わせることで、放射光の原理と利用研究の基礎を学ぶと共に、放射光を使う実習によって最先端の実験を体験出来るようにカリキュラムが準備されています。また、究極のX線源であるX線自由電子レーザー施設(SACLA)についても学ぶこと

ができます。

主催(予定)：兵庫県立大学大学院物質理学研究科・生命理学研究科，関西学院大学大学院理工学研究科，東京大学放射光連携研究機構，岡山大学，大阪大学・光科学連携センター・蛋白質研究所・核物理研究センター，(公財)高輝度光科学研究センター，理化学研究所放射光科学総合研究センター，日本原子力研究開発機構 等

日時：2016年7月3日(日)～7月6日(水)(予定)

場所：大型放射光施設 SPring-8 キャンパス

参加費：無料(但し宿泊費・交通費等は自己負担)

募集定員：60名程度

対象*：大学院修士(博士前期)課程の学生

(*人数に余裕があれば学部4年生も受け入れます)

所属大学で放射線業務従事者として教育を受け、登録されていること

主催大学の推薦枠あり(詳細はホームページをご覧ください)

申込期間：4月18日(月)10:00～5月13日(金)17:00まで(予定)

申込方法：WEBでのOn-line登録による参加申し込みとなります。

(応募者多数の場合は参加登録の内容をもとに選考させていただきます。)

詳しくはSPring-8ウェブサイト(3月下旬にオープン予定)をご覧ください。

<http://www.spring8.or.jp/ja/> ⇒「大学生・院生の方へ」⇒「夏の学校」⇒「第16回」

問合せ先：

SPring-8 夏の学校事務局
(公財)高輝度光科学研究センター(JASRI) 研究調整部
〒679-5198 兵庫県佐用郡佐用町光都 1-1-1
TEL：0791-58-0987 FAX：0791-58-0988
E-mail：2016summerschool@spring8.or.jp

■日本真空学会関西支部 & 日本表面科学会関西支部合同セミナー2016

「生分解性高分子の基礎と応用 —近未来のすがた—」

今やエネルギー・環境問題に対する関心は空前の高まりをみせていると言っても過言ではありません。製造に際しては化石燃料への依存度を減らし、使用後は環境に過負荷を与えることなく分解・再利用することが可能な生分解性高分子は我々の文明が抱えている問題のひとつの解決策ではないでしょうか。一方で、電子デバイスへの応用や繊維の細線化に伴って高分子表面領域の構造制御と新規物性の開拓と言った課題がこれまでにない勢いでソフトマター研究者の関心を集めつつあり、表面・真空分野との間隔はかつて無いほどに接近しております。今回、生分解性高分子研究の現状から将来展望まで第一線でご活躍の専門家の方々に解説して頂きます。ソフトマターを専門とされる方はもちろんのこと、様々な分野の研究者・技術者・学生・一般の方にも参考になる内容です。ご参加をお待ち致しております。

主催：(公社)日本表面科学会関西支部，(一社)日本真空学会関西支部，京都大学大学院工学研究科

協 賛：日本放射光学会，他
日 時：2016年7月4日(月) 13：15-17：00
場 所：京都大学 桂キャンパス 桂ホール 〒615-8530 京都市西京区京都大学桂 B クラスター
参加費：無料 (テキスト代実費)
定 員：200名
申込締切：2016年7月3日(日)
申込方法：http://www.vacuum-jp.org/ または http://www.sssj.org/ よりリンクされた合同セミナーの案内ページ，
http://www.sssj.org/Kansai/goudou160704.html からの ONLINE 申し込みを推奨します。
問合せ先 (担当幹事)：
高橋 功 (〒669-1337 三田市学園 2-1 関西学院大学理工学部)
TEL：079-565-9722 E-mail：z96019@kwansei.ac.jp

■第44回薄膜・表面物理セミナー (2016) 最先端バイオイメージング技術の基礎と応用

Seeing is believing (百聞は一見にしかず)…「見ること」は、自然科学の進歩において常に重要な役割を担ってきました。とりわけ近年の生物学では、生体機能の探索においても可視化の重要性がますます高まっており、研究開発の現場で、最先端のイメージング技術が不可欠となっています。一方、薄膜・表面物理の分野で精力的に研究されている多くのイメージング技術は、高精度、高分解能、高感度といった優れた特徴を有するため、これまで以上に生物学の進展に寄与することが期待されます。そこで本セミナーは、バイオイメージングの分野と薄膜・表面物理の分野との間での交流や研究接点の模索と、これにともなう両分野の発展に繋がることを目指す研究会として企画されました。最先端のバイオイメージング技術について、基礎から応用まで、第一線でご活躍されている講師の方々に最新の研究成果を含めてご講演いただきます。多くの方々のご参加をお待ちしております。
主 催：公益社団法人 応用物理学会 薄膜・表面物理分科会
協 賛：日本放射光学会，他
日 時：2016年7月29日(金) 10：00-17：30 (受付開始 9：30)
場 所：早稲田大学 西早稲田キャンパス 55N 号館 1階 大会議室
(東京都新宿区大久保 3-4-1, 地下鉄副都心線 西早稲田駅直結, JR 山手線高田馬場駅 徒歩15分)
定 員：100名 (定員になり次第締め切ります。)
参加申込期間：2016年4月14日(木)~7月7日(木)

参加申込方法：
薄膜・表面物理分科会ホームページ <http://annex.jsap.or.jp/tfspd/> 内の第44回薄膜・表面物理セミナー登録フォームから参加登録をお願いします。
セミナー内容問合せ先：
静岡大学 下村 勝
E-mail：shimomura.masaru@shizuoka.ac.jp
日立ハイテクノロジーズ 古川貴司
E-mail：takashi.furukawa.rz@hitachi-hightech.com
参加登録問合せ先：
応用物理学会 事務局 分科会担当 小田康代
TEL：03-5802-0863 FAX：03-5802-6250
E-mail：oda@jsap.or.jp

■第6回講習会「X線反射率による薄膜・多層膜の解析」

X線反射率法は、薄膜・多層膜の深さ方向の内部構造、具体的には、各層の膜厚、密度、各界面のラフネス等を非破壊的に求めることができる解析技術です。本講習会では、X線反射率法の経験豊富な専門家を講師陣に迎え、基礎から丁寧に解説を行うとともにシミュレーションやデータ解析の実習を少人数のグループにて、きめ細かく行ないます。休憩時間には「X線反射率相談デスク」を設け、日頃の疑問に思っていること、質問したくてもなかなかできなかったことに、6名の専門家がお答えします。
主 催：(公社)応用物理学会 埋もれた界面のX線中性子解析研究会
日 時：2016年8月25日(木) 9：00-16：30
場 所：物質・材料研究機構 千現地区 (茨城県つくば市)
受講費：19,000円(税込)。「X線反射率法入門」(講談社)を既にお持ちの方は5,000円引きの14,000円(税込)です。また過去の講習会に参加された方はリピーター割引きて、9,000円(税込)です。
定 員：30名 (実習 A 6名, B 12名, C 12名)
申込方法：氏名(ふりがな)、所属、住所、TEL、FAX、e-mail、実習コース(A, B, C)のご希望をご連絡下さい。折り返し受付の連絡をいたします。

連絡先：
国立研究開発法人 物質・材料研究機構
高輝度光解析グループ 桜井健次
TEL：029-859-2821 FAX：029-859-2801
E-mail：SAKURAI.Kenji@nims.go.jp